

# 税務・財務情報 第3105号

## 人生 100 年時代！の資産形成術

～長生きリスクに備える～

税務・財務に関する情報を使いこなすことができれば、より豊かな人生が送れるものと確信しています。私どもは、情報を、どう使いこなすか？につつまして、何らかのお役に立てればと願っております。情報に目を通していただき、ご自身にどう当てはめたらよいのか！お考えいただき、お分かりにくい点につつまして、弊社の担当者がお伺いした場合に、ご一緒に検討させていただきたく存じます。税務・財務に関する情報の提供を通じて、お客様の繁栄と、平安に、少しでも貢献できればと願います。

友弘正人

### 株式会社トータル財務プラン



税理士法人トータル財務プラン

行政書士法人トータル財務プラン

友弘正人公認会計士事務所

〒651-0087

神戸市中央区御幸通3丁目1番8号 ライオンズ三宮ビル2階

TEL:078-221-7711 / FAX:078-221-7717

<https://www.topp.co.jp>

e-mail [info@topp.co.jp](mailto:info@topp.co.jp)

# 人生 100 年時代！の資産形成術

～長生きリスクに備える～

## 1 はじめに

日本では人生 100 年時代へと進んでいます。50 歳でもまだまだ人生の折り返し地点、セカンドライフはますます長くなる傾向にあります。

医療の進歩など様々な要因によって、より多くの方が 100 歳を迎えるような時代になるにつれて不安もたくさんあります。

長寿、認知症、介護、生活費や医療費、社会的な孤立など、ご自身だけでなく身近な人たちに負担をかけてしまうかもしれません。

しかしご自身の寿命が予測できない以上、経済的な不安は拭いきれません。

老後の生活費は公的年金や企業年金を中心に不足する分を現役時代に貯めた資金や退職金を取り崩して賄うのが一般的ですが、長生きすればするほど貯蓄が減っていきゆくゆくは老後破産という憂き目にあうリスクがあるのです。

そのような長生きリスクに備えるためにどんな準備が必要なのでしょうか。

## 2 老後の生活費はいくらかかるのか

政府が実態調査した 1 ヶ月の生活費（消費支出）の平均は、世帯主が 65 歳以上の無職の世帯では 23.3 万円、70 歳以上では 22.4 万円となっています。

公的年金などの実収入は 20 万円強であり、直接税・社会保険料を加えると支出が収入を上回っている実態があります。

公的年金の受給だけでは生活できず、無職の老後世帯は預貯金を取り崩して生活していかなければならないのです。長生きすることで貯蓄が底をつきて、生活が立ち行かなくなるリスクがあるのです。

世帯主の就業状態別 1 世帯当たり 1 ヶ月の収入と支出

(二人以上の無職の世帯)

単位：円

項目	世帯主が65歳以上の世帯	世帯主が70歳以上の世帯
公的年金などの実収入	207,229	202,928
預貯金引出等の実収入以外	282,310	265,955
生活費（消費支出）	-233,945	-224,718
直接税・社会保険料	-27,602	-26,281

※総務省統計局「家計調査年報平成29年」



### 3 公的年金以外で老後の生活に備える年金はあるの？

長生きリスクに備えるために、終身年金を選ぶという選択肢もあります。しかし現在は低金利の影響もあり、終身年金自体を取り扱っている保険会社はそれほど多くはありません。

近年販売数が急激に伸びているのは、「トンチン年金」と呼ばれるもので、死亡保障や解約時の返戻金を抑える代わりに、年金を生涯受け取れるようにすることで、長生きするほど受取総額が膨らむ年金保険です。

トンチン年金は、加入者が死亡した場合の掛け金を遺族に返さず、生きている人にそのお金を回す仕組みをいいます。

ほとんどのトンチン型年金商品は契約時の告知義務がないため、基本的に誰でも加入することができるのです。

※現在トンチン年金に分類される商品は複数販売されていますが、実際には長寿〇〇保険や長寿〇〇年金という名称を使用されていることが多く、民間の生命保険会社や保険代理店、銀行窓口等で取り扱っています。

### 4 長生きすればするほどお得！トンチン年金

トンチン性のある5年保証期間付終身年金に50歳男性が加入したケースをご紹介します。保証期間とは、加入者の生死に関わらず必ず受け取れる期間のことです。

【支払保険料：8万円/月 年金受取開始年齢：65歳 年金額：60万円の商品の場合】  
50歳から65歳まで毎月8万円の保険料を支払うと、払込保険料総額は1,440万円になります。65歳から年間60万円受け取れるので、100歳まで生存した場合、年金受取総額は2,160万円となります。

ではこの場合、年金受取累計額が払込総額に達するのは何歳なのでしょう。88歳を超えると年金保険の受取総額の方が、積み立てた保険料よりも多くなるのです。年金開始前に加入者が死亡すると死亡給付金として解約返戻金相当額が支払われます。トンチン性のない個人年金保険だと、解約返戻金は払込保険料相当額ですが、トンチン型年金保険の場合は低解約返戻金型となっており、払込保険料の6～7割程度低く設定することで年金額を大きくしています。

死亡時の保障よりも長生きした際に大きな金額を受け取れることを重視した新しい発想の年金保険です。

## 5 日本ではどのくらいの人長生きするの？

厚生労働省が公表する「平成 29 年簡易生命表」では、男性の平均寿命は 81.09 歳です。また、ある年齢の人が、その後何年生きられるかの平均年数を示す平均余命では、年金受給開始の 65 歳男性は 19.57 年となっており、およそ 84 歳です。

さらに男性の 90 歳までの生存率は 25.8%となっており、およそ 4 人に 1 人が 90 歳を迎えると考えられます。

過去の平均寿命の年次推移を見ても、寿命はどんどん延びている傾向にあるのです。

### ◀ 平均寿命の年次推移 ▶ (単位：年)

西暦	男性	女性	西暦	男性	女性
1947年	50.06	53.96	1990年	75.92	81.90
1955年	63.60	67.75	1995年	76.38	82.85
1960年	65.32	70.19	2000年	77.72	84.60
1965年	67.74	72.92	2005年	78.56	85.52
1970年	69.31	74.66	2010年	79.55	86.30
1975年	71.73	76.89	2015年	80.75	86.99
1980年	73.35	78.76	2016年	80.98	87.14
1985年	74.78	80.48	2017年	81.09	87.26

※厚生労働省「平成 29 年簡易生命表」

## 6 最後に

100 歳まで寿命が延びることは喜ばしい一方、定年退職をし、退職金と年金で悠々自適に暮らすというライフプランが必ずしも成り立たなくなる可能性もあります。

平均寿命までの生活ができるよう貯蓄を行ったとしても、その年齢を超えて長生きする人の割合は計算上、半数を超えるのです。

これからの長寿社会を生きるには、働き方や健康に配慮しながら、豊かな生活を送るための資産づくりをすることも大切です。

老後資金を形成する方法はトンチン年金の他にも、つみたて NISA や iDeCo、小規模企業共済などいくつかあります。

それら商品の中から自分に合ったものを選びながら組み合わせて運用していくことで、安定した資産づくりができると考えられます。

今回ご紹介したトンチン型年金保険は弊社でも取り扱っていますので、ご興味がありましたら弊社の担当者にお尋ねください。